

自第五一七八號	同	鎮海海兵團	臨時附屬	昭和十九年官房艦機 海密第二四五五號(鎮)	自一八一四二三八
自第五一七八號	同	高雄海兵團	定數補充	昭和十九年官房艦機 海密第五〇〇四號(高)	自一八一四二三八

官房軍第一三三三號
昭和十九年度新造計畫雜役船(カッター)ノ公稱番號、船種、
所屬等ヲ左ノ通定ム

昭和十九年十二月十五日

海軍大臣

(公稱番號)	船種	所屬	定數別	製造訓令番號	計畫番號	備考
自第三〇〇一號	カ(九米)ツ(四十隻)	海軍經理學校	定數補充	墨田川造船所	自九九一〇一	
自第三〇〇四號	同	三軍海軍航空隊	同	同	自九九一〇一	
自第三〇〇九號	同	北浦海軍航空隊	同	同	自九九一〇一	
自第三〇一〇號	同	土浦海軍航空隊	同	同	自九九一〇一	
自第三〇一四號	同	海軍航海學校分校	同	木村工作所	自九九一〇一	
自第三〇一八號	同	鹿島海軍航空隊	同	同	自九九一〇一	
自第三〇二二號	同	濱名海兵團	同	同	自九九一〇一	
自第三〇二六號	同	横須賀海兵團	同	同	自九九一〇一	

秘海軍公報 第四八八二號 昭和十九年十二月十八日

0482

自第三五九六號	自第三五二四號	自第三五〇四號	自第三四六三號	自第三四四二號	自第三四四二號	自第三四四二號	自第三四一七號	自第三三九八號	自第三三七八號	自第三三七六號	自第三三七五號	自第三三七〇號	自第三三五五號	自第三三一四號	自第三二九四號	自第三二九〇號	自第三二四一號
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	カ
(同)(十七隻)	(同)(二十隻)	(同)(十一隻)	(同)(四十隻)	(同)(十隻)	(同)(十隻)	(同)(十隻)	(同)(二十隻)	(同)(二十隻)	(同)(二十隻)	(同)(二隻)	(同)(五隻)	(同)(十六隻)	(同)(四十隻)	(同)(四隻)	(同)(十六隻)	(同)(四隻)	(九米)(五十隻)
奈良海軍航空隊	滋賀海軍航空隊	横須賀海軍航空隊	清水海軍航空隊	海軍電測學校	沼津海軍工作學校	横須賀海軍工作學校	長井海軍砲術學校	横須賀海軍砲術學校	海軍工機學校分校	海軍工機學校	横須賀海軍通信學校	海軍航海學校	海軍對潛學校	海軍水雷學校	館山海軍砲術學校	横須賀海軍砲術學校	武山海兵團
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	定數補充
昭和十九年官房艦機 密第三三八〇號(横須賀)																	
自九九三三九六	自九九三三〇四	自九九三〇〇三	自九九二六三三	自九九二五三三	自九九二四三三	自九九二四三三	自九九二四一八	自九九一九七八	自九九一九七八	自九九七七七六	自九九七七七一	自九九七五〇五	自九九五五四五	自九九四四一四	自九九〇九四一	自九九〇九四一	自九九〇四〇一

秘海軍公報 第四八八二號 昭和十九年十二月十八日

自 第 四 一 二 七 號	自 第 四 一 三 六 號	自 第 四 一 三 九 號	自 第 四 一 四 三 號	自 第 三 九 六 七 號	自 第 三 九 五 七 號	自 第 三 九 五 七 號	自 第 三 八 九 七 號	自 第 三 八 九 七 號	自 第 三 八 五 六 號	自 第 三 八 三 七 號	自 第 三 八 三 七 號	自 第 三 八 二 七 號	自 第 三 八 一 七 號	自 第 三 八 一 七 號	自 第 三 七 七 號	自 第 三 七 七 號	自 第 三 六 九 六 號	自 第 三 六 五 三 號	自 第 三 六 四 七 號	自 第 三 六 四 六 號	自 第 三 五 九 七 號
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
(同) (四十隻)	(同) (四十隻)	(同) (四十八隻)	(同) (二十二隻)	(同) (七十隻)	(同) (十隻)	(同) (六十隻)	(同) (四十隻)	(同) (二十隻)	(同) (十隻)	(同) (十隻)	(同) (十隻)	(同) (十隻)	(同) (四十隻)	(同) (八十隻)	(同) (四十隻)	(同) (四隻)	(同) (六隻)	(同) (六隻)	(同) (五十隻)		
宇 和 島 分 遣 隊	松 山 海 軍 航 空 隊	浦 戶 海 軍 航 空 隊	倉 敷 海 軍 航 空 隊	賀 茂 海 軍 病 院 練 習 部	大 阪 海 兵 團	大 阪 海 兵 團	安 浦 海 兵 團	大 竹 海 兵 團	吳 海 兵 團	海 軍 潛 水 學 校 分 校	海 軍 潛 水 學 校	海 軍 潛 水 學 校	防 府 海 軍 通 信 學 校	大 海 軍 原 兵 學 校	海 軍 兵 學 校	海 軍 兵 學 校	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
八〇六號(吳)																	同 年 官 房 艦 機 密 第 四	同 年 官 房 艦 機 密 第 三	同 年 官 房 艦 機 密 第 三	同 年 官 房 艦 機 密 第 四	同 年 官 房 艦 機 密 第 四
至 九 一 三 四 七 七	至 九 一 三 四 三 七	至 九 一 三 三 九 七	至 九 一 三 三 五 〇	至 九 一 三 三 四 八	至 九 一 三 三 四 八	至 九 一 三 三 七 八	至 九 一 三 三 六 七	至 九 一 三 三 六 八	至 九 一 三 三 六 八	至 九 一 三 三 六 八	至 九 一 三 三 六 八	至 九 一 三 三 六 八	至 九 一 三 三 六 八	至 九 一 三 三 六 八	至 九 一 三 三 六 八	至 九 一 三 三 六 八	至 九 一 三 三 六 八	至 九 一 三 三 六 八	至 九 一 三 三 六 八	至 九 一 三 三 六 八	至 九 一 三 三 六 八

一六一九

0484

自第四八七〇號 至第四八七三號	同 (同) (四隻)	鎮海防備隊	同	同年官房艦機密第四 八一〇號(高雄)	自 九一三六九七
自第四八七四號 至第四八七三號	同 (同) (二十隻)	高雄海兵團	同	同年官房艦機密第四 八〇九號(鎮海)	自 九一三七四七
第四八九四號	同 (同)	東港航空基地	同	同年官房艦機密第四 八〇九號(鎮海)	自 九一三七六六
自第四八九五號 至第四九〇八號	同 (同) (十四隻)	佐世保海軍港務部 (旅順方面特別根據 地隊司令部供用)	同	同年官房艦機密第四 八〇九號(鎮海)	自 九一三六九八
自第四九〇九號 至第四九二二號	同 (同) (十五隻)	佐世保海軍港務部 (青島方面特別根據 地隊司令部供用)	同	同年官房艦機密第四 八一〇號(高雄)	自 九一三七一一
自第四九二四號 至第四九二九號	同 (同) (六隻)	橫須賀防備隊	同	同年官房艦機密第四 八一〇號(高雄)	自 九一三七六六

官房經第一〇八五號
昭和十九年官房經第八八號中左ノ通改正ス
昭和十九年十二月十六日

海軍大臣

第十七條ノ二 疎開ノ爲廳ノ一部其ノ所在ノ市(東京都ニ在リ
テハ區ノ存スル區域ヲ謂フ)町村(之ニ準ズルモノヲ含ム)
外ニ移轉シタルトキハ移轉先ノ地ヲ旅費支給上ノ勤務地ト看
做シ移轉シタル職員ニ對シ轉勤旅費ヲ支給ス但シ家族移轉料
ハ移轉後一年未滿ノ豫定ヲ以テ勤務スル者ニハ之ヲ支給セズ
第十七條ノ三 新ニ赴任スル者又ハ所屬ヲ轉ジタル者着任ト同
時ニ前條ニ該當スル廳ノ一部ニ勤務ヲ命ゼラレタルトキハ直
接其ノ移轉先ニ、前條ニ該當スル廳ノ一部ニ勤務中ノ者他ニ
轉ジタルトキハ直接新所屬廳ニ夫々赴任又ハ轉勤スルモノト

秘海軍公報 第四八八二號 昭和十九年十二月十八日

シテ旅費ヲ支給ス
附則

本令ハ昭和十九年十月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス
(参照) 海軍機密會計法規類集二二九頁昭和十九年官房經第八八號
ハ軍人軍屬ノ旅費ノ特例ニ關スル件ナリ

官房第一三四一號
雜役船ノ船名ヲ左ノ通變更ス
昭和十九年十二月十七日

海軍大臣

船種	舊船名	新船名	所屬	定數別	記事
練習船	樟	第一泊浦	海軍航海學校	臨時附屬	
練習船	樟	第二泊浦	同	同	

0488

一六三三

○ 通 牒

軍需機密需第七〇八號

昭和十九年十二月十六日

海軍省軍需局長

各海軍軍需部長一殿
各特設海軍軍需部長一殿

艦營需品供給停止、供給制限、代用品利用及
規格低下ニ關スル件申進ノ件申進

昭和十八年軍需機密需第五七七號申進首題ノ件中左記ノ通改正
セラレ候

記

供給停止品

區別	主管別	區別	品名	記	事
追加	主計長	消耗品	經費明細簿 甲	在庫限供給	
同	同	同	同	同	

(参照) 艦營需品、燃料取扱例規一八二ノ三三頁

官房需第二九七號

昭和十九年十二月十六日

關係各廳長殿

海軍省兵備局長
海軍省軍需局長
海軍省經理局長

物資動員計畫第四分科各廳用物資配給
ニ關スル件照會

首題ノ件昭和二十年度分ヨリ左記ニ依リ處理相成度

記

- 一 需要廳ハ第一種軍需ニ關シテハ別紙様式第一ニ、第二種軍需及充足軍需ニ關シテハ別紙様式第二ニ依ル調書四通ヲ需要期ノ二ヶ月前迄ニ主務部局ニ送付シ主務部局ハ之ヲ取纏メ各一通ヲ需要期一ヶ月前迄ニ兵備局、軍需局及經理局ニ送付スルモノトス
- 二 兵備局ハ軍需局及經理局ト協議ノ上需要期ノ前月中ニ配給方法及割當額ヲ民間ヨリ取得ノモノ、燃料廠ヨリ賣拂ノモノ、軍需部ヨリ繰替供給ノモノニ區分ノ上配給元竝ニ主務部局ニ通知シ主務部局ハ需要廳ニ通知スルモノトス
- 三 前項ニ依リ決定後配給實施ニ關スル詳細ハ需要廠ヨリ配給元ニ直接協議スルモノトス但シ民間ヨリ取得ノモノノ中經理局統制契約ノモノニ付テハ同局ニ協議スルモノトス
- 四 石油類ハ第一種軍需(除兵備品)、第二種軍需、充足軍需ノ全部、石炭類ハ第一種軍需(除兵備品)ニ付調査スルモノトス
- 五 資源名ハ物動ニ定メラレタルモノヲ使用シ調書ハ總テ資源名毎ニ別紙トシ石炭、コークス、重油、半固體機械油ハ應テ、輕質油、機械油ハ軒(小數點一位迄算出)ヲ單位トス
- 六 前項資源名ノ細分類ハ燃料經理規程、石油專賣法、石油配

給統制株式會社取扱製品、石炭品位取締規則ニ依ル品名ヲ使
用スルモノトス但シ右ノ外特ニ必要アルモノハ理由ヲ附シ掲
上スルモノトス

七 用途ハ明確、具體的ニ記入シ妥當ナル品種ヲ選定スルコト

八 從來兵備品ヨリ繰替供給ヲ認メラレシモノモ石油類ニ關ス
ル限リ本號ニ依リ一括處理スルモノトス

九 主務部局ハ第四分科ニ限リ別紙第三ノ通トス

十 兵備ニ機密第九四〇號(昭和十六年十月二日海軍公報(部
内限)ハ本號ニ依リ消滅スルモノトス

(別紙添)

艦本機密一一號ノ二二〇四八
昭和十九年艦本機密第一一號ノ一四三一六中左ノ通改ム
昭和十九年十二月十三日

海軍艦政本部長

別紙様式調製心得第三號ニ左ノ但書ヲ加フ
但シ代用符號ノ上ニ工事擔當主務部ヲ「砲」「船」「機」等
ノ如ク併記スルモノトス

(參照) 昭和十九年艦本機密第一一號ノ一四三一六ハ大東亞
戰爭中艦船主要工事月報様式特令ノ件ナリ

航本機密第一五二三八號

昭和十九年十二月十三日

海軍航空本部總務部長

秘海軍公報 第四八八二號 昭和十九年十二月十八日

第一、第二、第六十一 海軍航空廠總務部長
第十一、第十二、第二十、第二十一、第二十二、第二十三、第二十四、第二十五、第二十六、第二十七、第二十八、第二十九、第三十、第三十一、第三十二、第三十三、第三十四、第三十五、第三十六、第三十七、第三十八、第三十九、第四十、第四十一、第四十二、第四十三、第四十四、第四十五、第四十六、第四十七、第四十八、第四十九、第五十、第五十一、第五十二、第五十三、第五十四、第五十五、第五十六、第五十七、第五十八、第五十九、第六十、第六十一、第六十二、第六十三、第六十四、第六十五、第六十六、第六十七、第六十八、第六十九、第七十、第七十一、第七十二、第七十三、第七十四、第七十五、第七十六、第七十七、第七十八、第七十九、第八十、第八十一、第八十二、第八十三、第八十四、第八十五、第八十六、第八十七、第八十八、第八十九、第九十、第九十一、第九十二、第九十三、第九十四、第九十五、第九十六、第九十七、第九十八、第九十九、第一百

殿

機體完成時ノ電氣的検査ニ關スル件照會

首題ノ件左記ヲ特ニ注意ノ上勵行方取計ラハレ度

記

一 直結發電機、電池及無線電信機承金部ニ於ケル正負ノ極性
検査

二 無線支柱ノ空中線部ト機體間トノ絶縁抵抗値ノ測定記録

(五〇〇V絶縁試験器ニテ一〇〇メガオーム以上ナルヲ要ス)

三 試運轉時ノ直結發電機ノ發生電壓ノ測定記録

(此際充電電流ハ特ニ問題トセス)

四 電池筐蓋等ニテ電池電極ノ短絡スル惧ナキコト

五 磁石發電機起動用電線ノ端末處理ノ狀況

(別紙參照)

(別紙ハ必要ノ向ニノミ之ヲ配付ス)

○ 雜 款

○ 轉勤者利用列車ノ件

當地ハ交通極メテ不便ナルニ付當隊ヘノ轉勤赴任者ハ必ズ左記
列車ヲ利用相成様致度

記

函館發 一四〇五(根室行)
厚岸着 一一二〇
(厚岸防備隊)

(厚岸防備隊)

○轉勤者赴任先
當艦隊司令部へノ轉勤者ハ北海道千歲郡千歲町千歲航空基地ニ
向ケ赴任セシメラレ度

(北東方面艦隊司令部)
(第十二航空艦隊司令部)

合同海軍葬儀執行

期日及時刻	大東亞戰爭戰歿者	喪葬管理者	場所	記事
十二月十九日 〇九〇〇	故海軍少佐有川俊雄外諸勇士	鹿兒島地方海軍人事部長	鹿兒島市西本願寺	佛式
十二月二十一日 一〇〇〇	故海軍少將金岡知二郎外諸勇士	大阪海軍人事部長	大阪驛前海軍會館	同

○本日軍械秘海軍公報第五一號(甲配付)發行セリ

○本日海軍公報發行セズ

0491

(官房需第二九七號別紙様式第一)

(昭和十九年十二月十八日秘海軍公報)

昭和 年度第 四半期第一種軍需配給要望表
所在地
資源名

廳名印

者	扱
氏名	電話

(單位)

品	種	數	量	用	途	受給場所	配給要望		記事	品	種	數	量	方	法
							第 四 半 期	第 四 半 期							

- (備考)
- 一 受給実績ハ配給要望期ノ前々期ノモノヲ記入ノコト
 - 二 在庫數ハ実績期末ノモノヲ記入ノコト
 - 三 配給豫定欄ハ空白トナシオクコト
 - 四 用紙ハB₆規格判ノモノヲ用フルコト

0492

(官房需第二九七號別紙第三)

教育局關係	各學校、各病院練習部
醫務局關係	各病院
經理局關係	各經理部、各人事部、各刑務部、各港務部、各海仁會、各水交社、各運輸部、海星會、各在勤武官府
軍需局關係	各軍需部、各燃料廠、各衣糧廠
艦政本部關係	各工廠(但シ航空本部關係ノモノヲ除ク)各工作部、技術研究所、各火藥廠、各造船造兵監督官事務所
航空本部關係	航空技術廠、各航空廠、高座、津、沼津、多賀城、鈴鹿、川棚各工廠
施設本部關係	各施設部
(直接)	水路部
(直接)	氣象部
兵備局關係	他ニ屬セザルモノ

共濟組合病院、購買所、會館等ハ各其ノ長ノ屬スル廳ニ準ズ

(昭和十九年十二月十八日秘海軍公報)

0494

秘

海軍公報 第四八八三號

昭和十九年十二月十九日(火)
海軍大臣官房

○令 達

内令第一三〇二號ノ二

第二百四十四號驅潛特務艇

右本籍ヲ佐世保鎮守府卜定ム

昭和十九年十二月一日

海軍大臣 臣

内令第一三〇二號ノ三

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年十二月一日

海軍大臣 臣

佐世保防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百三十四號(佐)」ノ次ニ「第二百四十四號(佐)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)

内令第一三五〇號

第二百四十七號驅潛特務艇

右本籍ヲ鎮海警備府卜定ム

昭和十九年十二月十一日

海軍大臣 臣

内令第一三五一號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年十二月十一日

海軍大臣 臣

鎮海防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百三十四號(鎮)」ノ次ニ「第二百四十七號(鎮)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)

官房教機密第五二〇號

昭和十九年十二月十六日

海軍大臣 臣

各鎮守府司令長官
各警備府司令長官 殿

海兵團及術科學校ニ於ケル「ツベルクリン」

反應陰性者、陽性者分離竝ニ保健特別訓練班

編制ノ件訓令

首題ノ件左記要領ニヨリ實施スベシ

記

「ツベルクリン」反應陰性者、陽性者分離竝ニ

保健特別訓練班編制實施要領

一 目的

秘海軍公報 第四八八三號 昭和十九年十二月十九日

一六三七

0495

結核性疾患ノ發生ヲ豫防スルト共ニ體力強健ナラザル兵ニ對シテハ教育訓練ヲ漸進的ニ案測施行シ以テ健兵ヲ育成スルニアリ

二 實施スベキ海兵團及學校

(イ) 海兵團

武山團、濱名團、大湊團、大竹團、安浦團、大阪團、相浦團、針尾團、鎮海團、高雄團、平團

(ロ) 衛科學校

横通校、對潛校、電測校、航校、横作校、沼作校、防通校、潛校、戸病練習部、賀病練習部

三 實施範圍

昭和二十年一月以降入團又ハ入校スベキ徵兵志願兵タル新兵練習兵及練習生但シ教官、教員及軍醫科士官ノ配員狀況並ニ教材諸施設ノ狀況ヲ考慮シ其ノ實施ヲ一部ニ限定スルコトヲ得

四 實施要領

(イ) 入團入校時「ツ」反應成績ニ依リ「ツ」反應陽性者分隊及「ツ」反應陰性者分隊ヲ編制シ居住區劃ハ極力別ニス

(ロ) 「ツ」反應陰性分隊員ニハ所定ニヨリB・C・G接種ヲ施行シ接種後三ヶ月目ニ「ツ」反應検査ヲ實施シ陰性者ニハ再接種ヲ行フモノトス

(ハ) 第三號ノ新兵及練習兵並ニ練習生中ヨリ身體強健ト認めラレザル者ヲ選定シ左ノ要領ニヨリ保健特別訓練班ヲ編制

シ居住區劃ハ極力別ニスルモノトス

(一) 「ツ」反應陰性者特別訓練班

「ツ」反應陰性者ニシテ體格劣等發育不充分ニシテ一般兵ト同一訓練ヲ實施スルヲ不適當ト認めララル者ヲ以テ編制ス

(二) 「ツ」反應陽性者特別訓練班

「ツ」反應陽性者ニシテ體格劣等發育不充分又ハ發病要注意者ニシテ一般兵ト同一訓練ヲ施スハ適當ナラズト認めラル者ヲ以テ編制ス

(ニ) 保健特別訓練班員ノ選定ニ當リテハ望診所見、一般身體検査、體重、赤沈値、胸部X線間接撮影成績ノ外必要ニ應

ジ運動機能、負擔馳走、家族歴、體力手帳、「ツ」反應陽轉狀況、兵籍編入前ノ職業及環境等ヲ參考ニスルモノトス

(ホ) 保健特別訓練班ノ教育訓練ハ左ニ留意シ案測指導スルモノトス

(一) 一般分隊ニ比シ漸進的ニ案測施行シ體操ヲ活用基礎體力ヲ積極的ニ向上セシム

(二) 實施ニ當リテハ努メテ兵ノ體力ニ適應セシムル如クシ

指導官ハ自己ノ旺盛ナル體力ヲ基準トシテ行動シ兵ヲ徒ラニ過勞ニ陥ラシメ發病ノ因ヲ與フルヲ戒メ兵ノ心身ノ状態特ニ疲勞ノ程度、睡眠狀況等ヲ注意シ教育訓練全般ニ亙リ適切ナル指導ヲ施スモノトス

(三) 班員ニハ自己ノ體力ニ自信ヲ持タシメ積極的ニ體力ノ

向上ニ努力スル氣風ヲ涵養セシム
 (へ) 所轄長ハ軍醫科士官ヲシテ極力結核性疾患摘發ニ努力セシムルト共ニ教育訓練ノ體力ニ及ボス影響、休養及榮養ノ狀況、環境ノ良否等一般衛生事項並ニ兵ノ健康状態ニ注意セシメ且常ニ團(校)内生活ノ實狀ニ親炙シ醫學的見地ヨリ保健特別訓練班ノ體位向上ニ關シ指導官ヲ輔佐セシムルモノトス

官房人第一二六二號

海軍主計科及技術科武官任用及服役特例ノ規定ニ依リ築城施設關係ノ海軍技術科特務士官、准士官及下士官ノ任用ニ關シ左ノ通定ム

昭和十九年十二月十七日

海軍大臣

一 現ニ築城施設ノ業務ニ從事中ノ海軍軍屬又ハ施設關係ノ海軍工作兵ニシテ海軍技術科特務士官、准士官又ハ下士官タラシトコトヲ志願スルモノハ左表ノ區分ニ依リ昭和二十年二月末日迄ニ到達スル如ク別紙様式ニ依リ願書ニ履歷書ヲ添ヘ所轄長ヲ經テ所管鎮守府司令長官ニ願出ヅベシ但シ海軍軍屬ニ在リテハ兵籍編入志望ノ鎮守府司令長官ニ願出ヅルコトヲ得

志願區分	志願資格
(イ) 海軍技術科特務士官	海軍技術師タル者又ハ海軍技手トシテ三級俸以上ノ俸給ヲ受ケル者

秘海軍公報 第四八八三號 昭和十九年十二月十九日

(ロ) 海軍技術科准士官	(ハ) 海軍技術科下士官
<p>一 海軍技手トシテ六級俸以上ノ俸給ヲ受ケル者 二 判任官待遇(部内限ヲ含ム)ノ嘱託等トシテ月額七拾五圓以上ノ報酬又ハ給料ヲ受ケル者</p>	<p>一 施設關係ノ海軍工作兵ニシテ入籍前五年以上土木建築ノ業務ニ從事シタルモノ、中等學校以上ノ課程ヲ卒業シタルモノ又ハ所轄長ニ於テ海軍入籍後ニ於ケル勤務技術共ニ抜群ナルモノト認メタルモノ 二 海軍技手タル者 三 判任官待遇(部内限ヲ含ム)ノ嘱託等トシテ勤務中ノ者 四 海軍ニ於ケル築城施設ニ關スル業務ニ三年以上從事シタル者又ハ部外ニ於ケル土木建築ノ業務ニ五年以上從事シタル者 五 海軍ニ於ケル築城施設ニ關スル業務ニ從事中ニシテ中等學校以上ノ課程ヲ卒業シタル者但シ中等學校(乙種)卒業ノ者ニ在リテハ海軍ニ於ケル勤務一年以上ノモノ</p>

一 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ志願スルコトヲ得ズ
 (イ) 陸軍武官タル者及昭和二十年四月一日迄ニ陸軍部隊ニ入營又ハ召集豫定ノ者
 (ロ) 特務士官志願者ニ在リテハ年齢四十年以上、准士官志願者ニ在リテハ年齢三十五年以上又ハ二十八年未滿、下士官志願

0497

一六三九

備考

者ニ在リテハ年齢二十八年以上又ハ十八年未満ノ者(但シ規定ノ年齢ヲ超過シタルモノト雖モ職地勤務者等ニシテ所轄長ニ於テ身體強健氣力旺盛ナルモノト認めタルモノ又ハ規定ノ年齢ニ滿タザルモノト雖モ所轄長ニ於テ人物技術共ニ拔群ナルモノト認めタルモノハ志願セシムルコトヲ得)

(イ) 身體乙以下ノ者(但シ職地ヨリノ歸還者等ニシテ一時ノ衰弱ト認めラレ恢復ノ見込アリ所轄長ニ於テ勤務ニ差支ナキモノト認めタルモノハ志願セシムルコトヲ得)

二 豫備役ノ技術科武官ヲ志願シ得ルモノハ召集中ノ補充兵又ハ國民兵タル工作兵ニ限ルモノトス

三 官職階身分待遇勤務年數等ハ昭和二十年二月一日現在ノ資格ニ依ルモノトス

- 二 所轄長ハ前號ノ志願者ニ就キ別紙様式ニ依ル所見表ヲ調製シ第一號ノ規定ニ依ル願書ト共ニ之ヲ進達スベシ
- 三 任用試験ハ領守府司令長官ノ定ムル所ニ依リ適宜之ヲ施行スルコトヲ得

(別紙添)

○通 牒

官房機密第一三四號ノ二〇
昭和十九年十二月十五日

海軍省 副官

關係各廳長殿
暗號圖書配給及處分ニ關スル件申進
首題ノ件ニ關シテハ別ニ特令セララルモノヲ除キ別冊暗號圖書現狀表第四二號ニ依リ處理相成度
(別冊ハ所要ノ向ニノミ之ヲ配付ス)

○雜 款

○事務開始

事務 所 名	設 置 場 所	事務開始 月 日	電 話 記 事
第一水雷戰隊司令部	第二水雷戰隊司令部内	二月三日	
第三十八魚雷調整班	宮崎縣宮崎航空基地内	三月一日	
第二十六魚雷艦隊	佐世保防備隊内	三月一日	
第八五一海軍航空隊 殘務整理班	佐世保領守府艦艇部隊殘 務整理班内	三月六日	
第二百九設營隊	横濱在勤武官府内	三月三日	

○本日海軍公報發行セズ

(官房入第二二六二號別紙)
願書様式(用紙適宜)

(昭和十九年十二月十九日秘海軍公報)

昭和 年 月 日

本 籍
現勤務所

職官位勲 氏

名 ⑩

所管鎮守府司令長官宛

海軍現役(豫備役)技術科特務士官(准士官又ハ下士官)任用願

私儀

海軍主計科及技術科武官任用特例ニ依ル海軍現役(豫備役)技術科特務士官(准士官又ハ下士官)志願ニ付任用相成度

(履歴書添)

(註) 豫備役志願者ハ豫備役ト朱書スルモノトス

0499

(官房人第二二六二號別紙)
履歷書様式(用紙適宜)

(昭和十九年十二月十九日祕海軍公報)

履 歷 書

本 籍

戸主職業氏名何男

氏

何年何月何日生

名

一 學 歴 (國民學校卒業以後修學シタル學校名、修業科目及其ノ期間、卒業年月日ヲ詳細ニ記註スルヲ要ス)

二 築城施設(又ハ土木建築)ノ技術ニ關スル經歷(奉職シタル官廳又ハ民間事業ノ名稱從事シタル業務ノ種類内容及其

ノ期間ヲ詳細ニ記註スルヲ要ス)

右ノ通相違ナシ

昭和 年 月 日

右

氏

名 ㊦

0500



0502

海軍公報 第四八八四號

昭和十九年十二月二十日(水)
海軍大臣官房

○令 達

遠第三八四號

部外工場事業場管理規程中左ノ通改正ス

昭和十九年十二月十八日

海軍大臣

第二條第四號(ハ)ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

(ニ) 専ラ集中購買物品ノ造修ヲ爲ス工場又ハ事業場ニ關スル

第五條左表ヲ別表ノ如ク改ム

(別表添)

内令第一三四三號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年十二月十日

海軍大臣

佐世保防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第八十七號(佐)」ヲ削ル

第四艦隊ノ項魚雷艇ノ欄ニ「第二號艇(横)」ヲ加フ

南東方面艦隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第六號(吳)」及「第二十三

號(大)」ヲ、魚雷艇ノ欄「第二號艇(横)」ヲ削リ「第一號艇

艇(横)」ノ前ニ「第百十一號(横)」ヲ加フ

第一根據地隊ノ項ヲ削ル

第三十根據地隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第三十二號(横)」ヲ削ル
第六十五警備隊ノ項魚雷艇ノ欄「第四號(横)」ヲ削ル
第八十一警備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第九號(吳)」ヲ削ル
(内令提要卷三、四八ノ一九頁參照)

内令第一三四四號

昭和十九年内令第四三九號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年十二月十日

海軍大臣

第二魚雷艇隊ノ項中「112、117、125」及「25」ヲ削ル

第十二魚雷艇隊ノ項中「52、55、61、62」及「67」ヲ削ル

第二十五魚雷艇隊ノ項中「482、483」ヲ削ル

第二十七魚雷艇隊ノ項中「498、496、498、500、805、806、810、812、814、820」及「823」ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ二七頁參照)

内令第一三四五號

右本籍ヲ横須賀鎮守府卜定メタル處之ヲ解ク

第三十二號驅潛特務艇

秘海軍公報 第四八八四號 昭和十九年十二月二十日

一六四

<p>右本籍ヲ吳鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク</p> <p>第六號 驅潛特務艇 第九號 驅潛特務艇</p>	<p>右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク</p> <p>第八十七號 驅潛特務艇 第二十三號 驅潛特務艇</p>	<p>右本籍ヲ大湊警備府ト定メタル處之ヲ解ク</p> <p>第四號 魚雷艇 第十二號 魚雷艇 第十七號 魚雷艇 第二十五號 魚雷艇</p>	<p>右本籍ヲ橫須賀鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク</p> <p>同 第五十二號 魚雷艇 同 第五十五號 魚雷艇 同 第六十一號 魚雷艇 同 第六十二號 魚雷艇 同 第六十七號 魚雷艇</p>	<p>右本籍ヲ吳鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク</p> <p>第一百十六號 魚雷艇 第一百十七號 魚雷艇 第四百八十二號 魚雷艇 第四百八十三號 魚雷艇</p>	<p>第四百九十三號 魚雷艇 第四百九十六號 魚雷艇 第四百九十八號 魚雷艇 第五百號 魚雷艇 第五百五號 魚雷艇 第八百六號 魚雷艇 第八百十號 魚雷艇 自第八百十二號 魚雷艇 至第八百十四號 魚雷艇 第八百二十號 魚雷艇 第八百二十三號 魚雷艇</p>	<p>右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク</p> <p>昭和十九年十二月十日</p> <p>海軍大臣</p>	<p>內令第一三五二號</p> <p>右本籍ヲ橫須賀鎮守府ト定メラル</p> <p>昭和十九年十二月十一日</p> <p>驅逐艦 棟</p> <p>海軍大臣</p>	<p>內令第九四號</p> <p>左ノ通兵器ニ採用ス</p> <p>昭和十九年十二月十六日</p>
--	--	---	--	--	--	---	--	---

兵器名	
一號蓄電池	二十一型
一號蓄電池	二十六型
一號蓄電池	三十三型甲

海軍大臣

官房人機密第二〇三八號

本年十二月十五日現在左記上欄各隊ノ職員タル者ハ特ニ發令セラレモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ各下欄ノ相當職員ニ補命セラレタル義ト心得ベシ

昭和十九年十二月十五日

記

海軍大臣

大湊、館山、串本 小松島、父島	各海軍航空隊	第九〇三海軍航空隊
舞鶴、鎮海、佐世保 沖繩、第貳、第陸、第陸	各海軍航空隊	第九五一海軍航空隊

官房人機密第二〇四三號

昭和十九年勅令第五百三十號ノ規定ニ依リ現役ニ復歸セル兵科、軍醫科、主計科及技術科士官ノ海軍ノ席次ヲ左記ノ通定ム

昭和十九年十二月二十日

海軍大臣

記

海軍少佐 佐氏家勝比古「二〇八〇」ノ前ニ	海軍少佐 西哲雄「三〇九」
海軍少佐 野崎寛安「二七〇六」ノ次	同 伊東藤雄「三〇九」
海軍少佐 大道清紀「三二四六」ノ次	海軍少佐 木場一「九三六」
海軍少佐 大津清章「二四七七六」ノ次	海軍少佐 江成五郎「三〇五」
海軍大尉 渡邊章二「四七六」ノ次	海軍大尉 橋本真由七夫「三
海軍軍醫少佐 西嶋 東三「三五」ノ次	海軍軍醫少佐 加藤十一「三〇五」
海軍軍醫少佐 齋藤又三郎「三九八」ノ次	同 向井一郎「三五」
海軍軍醫少佐 櫻村 實「四二二」ノ次	海軍軍醫少佐 吉原啓市「三九」
海軍軍醫少佐 佐藤 仁	海軍軍醫少佐 中島慶彦「四三」
海軍主計少佐 岡田貞寛「三八二」ノ次	同 仁藤勝夫「四三」
海軍主計少佐 小林康邦「六三」	同 非狩甫介「六三」
同 堀田孝夫「六三」	同 堀田孝夫「六三」
同 林 精一「六三」	同 林 精一「六三」

秘海軍公報 第四八八四號 昭和十九年十二月二十日

一六四三

0504

海軍主計少佐	秋山 正太郎 (元六六三)
同	清水直 助 (元六三三)
海軍主計大尉	徳永 虎雄 (元七三三)
海軍主計大尉	野村 秀行 (元七五三)
海軍主計大尉	内田 勇 (元七五三)
海軍主計大尉	横山 修 (元七五四)
海軍主計大尉	澤村 通正 (元七五三)
海軍主計大尉	木俣 葛次 (元七五三)
海軍主計大尉	山内 義賢 (元七五三)
海軍主計大尉	野村 八郎 (元七五三)
海軍主計大尉	小笹 英夫 (元七五三)
海軍技術大尉	加藤 萬治良 (元七八一ノ二)ノ次
海軍技術大尉	鹿子 嶋勝一 (元八三八)ノ次
海軍技術大尉	丹羽 誠一 (元六六三)
同	松本 倫平 (元六六三)
同	池田 豊 (元六六三)

一六四四

海軍技術大尉	宮村 茂雄 (元一〇九七ノ六)ノ次
海軍技術大尉	鈴木 木春 (元一〇九七)
海軍技術大尉	鈴木 千里 (元一六六一ノ一〇)ノ次
海軍技術大尉	大竹 幹 (元一六六一ノ二)
海軍技術大尉	出水 義也 (元二四三〇ノ三四)ノ次
海軍技術大尉	齋藤 治一 (元二四三〇ノ三)
同	中村 正吉 (元二四三〇ノ三)
同	野口 英男 (元二四三〇ノ三)
同	貴田 勝造 (元六八八)
同	松島 正義 (元六八八)
同	石原 俊夫 (元六八七)
同	河野 一郎 (元六八八)
同	小平 清秀 (元六八九)

○ 雜 款

○訂正
 秘海軍公報第四八五四號令達欄内令第二二三〇號ノ二中
 「第二百四十二號驅潛特務艇」及同號ノ三中「驅潛特務艇ノ欄
 右本籍ヲ鎮海警備府ト定ム」
 「第二百三十號(領)」ノ次ニ「第二百四十二號(領)」ヲ加ヘ同
 項ヲ削除ス
 秘海軍公報第四八五三號令達欄内令第二二六四號中「第二百四
 十二號(領)」ヲ「第二百三十號(領)」ニ改ム

(達第三八四號別表)

監理官ノ名稱	管轄區域
臺北海軍監理官	臺灣
京城海軍監理官	朝鮮 關東州
富山海軍監理官	富山縣 石川縣 福井縣 新潟縣 長野縣
福岡海軍監理官	沖繩縣 福岡縣 大分縣 宮崎縣 熊本縣 鹿兒島縣 長崎縣 佐賀縣
廣島海軍監理官	高知縣 愛媛縣 山口縣 島根縣 鳥取縣 岡山縣 香川縣 德島縣
室蘭海軍監理官	北海道 樺太
名古屋海軍監理官	愛知縣 岐阜縣 靜岡縣 三重縣
大阪海軍監理官	大阪府 京都府 滋賀縣 奈良縣 和歌山縣 兵庫縣
東京海軍監理官	東京府 神奈川縣 千葉縣 埼玉縣 茨城縣 栃木縣 群馬縣 山梨縣 福島縣 宮城縣 山形縣 岩手縣 秋田縣 青森縣

(昭和十九年十二月二十日祕海軍公報)

0506



海軍公報

第四八八五號

昭和十九年十二月二十一日(木)

海軍大臣官房

○令 達

達第三八五號

海軍徴備船舶船員給與規則中左ノ通改正ス

昭和十九年十二月二十日

海軍大臣 臣

第三表ヲ別表ノ通改ム

附則

本達ハ昭和二十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別表添)

(参照) 海軍機密會計法規類集一三三頁

内令第一三五三號

海軍航空隊ノ所管、名稱及所在地又ハ原駐基地ノ件申左ノ通改正セラル

昭和十九年十二月十五日

海軍大臣 臣

横須賀鎮守府ノ部中第九〇一海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加ヘ同部中館山海軍航空隊、大湊海軍航空隊及父島海軍航空隊ノ各項ヲ削ル

第九〇三海軍航空隊

館山航空基地(千葉縣館山市)

呉鎮守府ノ部中第三四一海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加ヘ同部中申本海軍航空隊及小松島海軍航空隊ノ各項ヲ削ル

第六三一海軍航空隊

吳軍港

佐世保鎮守府ノ部中第七六三海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加ヘ同部中佐世保海軍航空隊、鎮海海軍航空隊、沖繩海軍航空隊、

第二五六海軍航空隊及第四五三海軍航空隊ノ各項ヲ削ル

第九五一海軍航空隊

佐世保航空基地(佐世保軍港)

舞鶴鎮守府ノ部中舞鶴海軍航空隊ノ項ヲ削ル

左ノ地ニ海軍航空隊分遣隊ヲ置ク部中小松島海軍航空隊河和分遣隊ノ項ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ三九頁参照)

内令第一三五四號

航空基地管理ニ關スル件中左ノ通改正ス

昭和十九年十二月十五日

海軍大臣 臣

三澤航空基地ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

大湊航空基地 第九〇三海軍航空隊

秘海軍公報 第四八八五號 昭和十九年十二月二十一日

六四五

0507

木更津航空基地ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

館山航空基地 第九〇三海軍航空隊

八丈島航空基地ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

父島航空基地 第九〇三海軍航空隊

南島島航空基地ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

串本航空基地 第九〇三海軍航空隊

小松島航空基地 第九〇三海軍航空隊

指宿航空基地 第四五三海軍航空隊

佐世保航空基地 第九五一海軍航空隊

指宿航空基地 第九五一海軍航空隊

領海航空基地

(内令提要卷一、三〇ノ四一頁参照)

内令第一三五五號(軍秘海軍公報第五二號(乙配付)ニ掲載)

内令第一三五六號

潜水隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十九年十二月十五日

海軍大臣

第十九潜水隊ノ項中「伊號第百六十二」ノ下ニ「伊號第百六

十五」ヲ加フ

(内令提要卷一、七〇頁参照)

内令第一三五七號

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル 波號第百六潜水艦

右練習兼警備潜水艦ト定メラル 伊號第百六十五潜水艦

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル 海防艦 四 阪

右警備海防艦ト定メラル 海防艦 四 阪

右警備海防艦ト定メラル 舞鶴鎮守府在籍 第八十二號海防艦

右警備海防艦ト定メラル 昭和十九年十二月十五日

海軍大臣

内令第一三五八號

右特設運送船(給油船)トシ横須賀鎮守府所管ト定メタル處之

ヲ解ク

汽船 極洋丸

海軍大臣

右特設運送船(給油船)トシ横須賀鎮守府所管ト定メタル處之

ヲ解ク

0508

昭和十九年十二月十五日

海軍大臣

官房教機密第五四五號

左表ニ依リ臨時水中電氣熔接及水中電氣切斷講習ヲ施行ス
昭和十九年十二月十九日

海軍大臣

講習科目	水中電氣 熔接及水 中電氣切 斷法	講習期間	講習施設	講習員 數	指導官 及同附
	自昭和十九 年十一月三 日 至同十二月 五日	横須賀 海軍工 作學校	派遣艦		
記事	一 所要旅費ハ請求ヲ俟テ別途配付ス				
	二 講習ニ要スル資材、消耗品ハ請求ヲ俟テ海軍省軍需局 長ヲシテ別ニ指示セシム				
	大和 長門 榛名 利根	職艦 准士官以上一名 巡洋艦 准士官以上一名 下士官兵 五名	横須賀 海軍工 作學校 職員 員適 宜		

官房軍機密第一五二七號

昭和十九年十二月二十日

海軍大臣

艦艇、船舶建造査察委員長殿
艦艇、船舶建造査察ニ關スル件訓令

一 民間造船所竝ニ製作所ニ於ケル海軍艦艇及商船ノ建造狀況

秘海軍公報 第四八八五號

昭和十九年十二月二十一日

竝ニ建造ニ必要ナル機關、補機、艤裝品等ノ製作狀況ヲ査察
シ極力之ヲ促進、生産ノ促進ヲ圖ルベシ
二 委員長ハ必要ニ應ジ調査其ノ他ニ關シ關係部局ノ協力ヲ求
ムルコトヲ得
三 委員長ハ適時中間報告ヲ行ヒ且査察終了後速ニ經過報告竝
ニ所見ヲ提出スベシ

○ 通 牒

軍需第一六七號
昭和十九年十二月 日

海軍省軍需局長

各鎮守府參謀長
各警備府參謀長
各艦隊參謀長

海軍省軍需米ノ特別配給措置ニ關スル件中改正
ノ件通知

昭和十九年軍需第一四六號首題ノ件第五號中「及豫備員候補
者」ヲ「豫備員候補者及艦營備入」ニ改メ昭和十九年十一月
五日以降ノ取扱ニ付之ヲ適用致候

(參照) 昭和十九年九月十九日秘海軍公報

○ 雜 款

○ 從軍年加算ニ關スル件照會
今般内閣告示第十五號ヲ以テ昭和十八年五月十三日以後千島列

<p>第五十三號海防艦艇裝具事務所 第四百十四號輸送艦艇裝具事務所</p>	<p>撤去月日 一月二八日 一月一日</p>	<p>記 事</p>	<p>○事務所撤去</p>	<p>○診療所開設 本院大阪分院ニ於ケル入院患者ヲ日本赤十字社兵庫支部療養院ニ委託シ本月五日ヨリ診療ヲ開始セリ名稱及所在左ノ如シ 一名 稱 吳海軍病院大阪分院須磨赤十字病院 一 所在 神戸市須磨區車 省線應取驛下車北方約五キロ (吳海軍病院)</p>	<p>記 島及其ノ港域ニ在リテ戰鬪力構成ニ參加從軍シタル公務員ニ對シ恩給法第三十二條第一項ノ規定ニ依リ職務乙ヲ加算セララルコトト相成候ニ付昭和十八年五月十三日以降當隊ヨリノ轉勤者ニ對シ左記事項調査ノ上本人履歷書(表)ニ記入相成度 一 加算取得記事ハ昭和十八年五月十三日以後ニ對スル分(千島方面ニテ職務乙) 二 右加算取得ニ依リ敍勳資格發生者ニ對シテハ速ニ調査具申ヲ要ス (第七五二海軍航空隊)</p>
<p>第七十四號海防艦艇裝具事務所</p>	<p>一月二〇日 一月二五日</p>	<p>記 事</p>	<p>○旅行順路變更</p>	<p>一 十二月一日ヨリ清水港線(省線)左ノ通開通ニ付三保驛終起點トナル 清水驛三保驛間八・五杆(三等車ノミ運賃金貳拾五錢) 二 前號ノ通開通ノ結果當隊ニ至ル順路左圖ノ通變更 清水驛 八・五杆 三保驛 一・五杆(陸路) 航空隊 (九月七日秘海軍公報參照) (清水海軍航空隊)</p>	<p>○本日海軍公報發行セズ</p>
<p>○本日海軍公報發行セズ</p>	<p>○本日海軍公報發行セズ</p>	<p>○本日海軍公報發行セズ</p>	<p>○本日海軍公報發行セズ</p>	<p>○本日軍機秘海軍公報第五二號(乙配付)發行セリ 配付先 各司令部、各航空隊、各航空廠、同支廠、航空技術廠、同支廠</p>	<p>○本日海軍公報發行セズ</p>

(達第三八五號別表)

(昭和十九年十二月二十一日祕海軍公報)

第三表 航海手当當

考 備	區 分			部内限 任待遇者	前項ニ該當セザル部内限 任待遇者	但シ年限 酬三、二四〇圓 以上ノ者	目			第三欄ノ二乃至第五欄 額	
	傭人	員	分				第一欄	第二欄	第三欄		
一 北緯三十七度以南ノ朝鮮ニ在ル港ヲ定繋港トスル徵備船舶乗組ノ員及傭人待遇者ニ在リテハ第一欄乃至第三欄ニ該當スル沿岸及海域ニ在ル場合ニハ給料ノ五割トス 二 北緯三十七度以北ニ在ル朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ在ル港ヲ定繋港トスル徵備船舶乗組ノ員及傭人待遇者ニ在リテハ第一欄乃至第三欄ニ該當スル沿岸及海域ニ在ル場合ハ給料ノ六割トス 三 第一欄乃至第五欄ノ沿岸及海域ハ海軍戰時特例給與規則第二表ノ定ムル所ニ依ル	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
	三十六圓未滿	給料月額 四十圓未滿	給料月額 四十圓以上	准士官ノ額	同	同	同	同	同	同	同
	五錢	九錢	十四錢	二十錢	二十錢	二十錢	二十錢	二十錢	二十錢	二十錢	二十錢
	給料月額 四十圓未滿	給料月額 四十圓以上	同	同	同	同	同	同	同	同	
	十二錢	十五錢	二十錢	二十錢	二十錢	二十錢	二十錢	二十錢	二十錢	二十錢	
	九錢	十七錢	二十錢	二十錢	二十錢	二十錢	二十錢	二十錢	二十錢	二十錢	
	六錢	九錢	九錢	九錢	九錢	九錢	九錢	九錢	九錢	九錢	
	給料ノ十分ノ十	給料ノ十分ノ十	給料ノ十分ノ十	給料ノ十分ノ十	給料ノ十分ノ十	給料ノ十分ノ十	給料ノ十分ノ十	給料ノ十分ノ十	給料ノ十分ノ十	給料ノ十分ノ十	
	但シ月額六十五圓ニ滿タザルトキハ十分ノ十六ヲ超エザル範圍内ニ於テ六十五圓迄ヲ支給スルコトヲ得	但シ月額六十五圓ニ滿タザルトキハ十分ノ十六ヲ超エザル範圍内ニ於テ六十五圓迄ヲ支給スルコトヲ得	但シ月額六十五圓ニ滿タザルトキハ十分ノ十六ヲ超エザル範圍内ニ於テ六十五圓迄ヲ支給スルコトヲ得	但シ月額六十五圓ニ滿タザルトキハ十分ノ十六ヲ超エザル範圍内ニ於テ六十五圓迄ヲ支給スルコトヲ得	但シ月額六十五圓ニ滿タザルトキハ十分ノ十六ヲ超エザル範圍内ニ於テ六十五圓迄ヲ支給スルコトヲ得	但シ月額六十五圓ニ滿タザルトキハ十分ノ十六ヲ超エザル範圍内ニ於テ六十五圓迄ヲ支給スルコトヲ得	但シ月額六十五圓ニ滿タザルトキハ十分ノ十六ヲ超エザル範圍内ニ於テ六十五圓迄ヲ支給スルコトヲ得	但シ月額六十五圓ニ滿タザルトキハ十分ノ十六ヲ超エザル範圍内ニ於テ六十五圓迄ヲ支給スルコトヲ得	但シ月額六十五圓ニ滿タザルトキハ十分ノ十六ヲ超エザル範圍内ニ於テ六十五圓迄ヲ支給スルコトヲ得	但シ月額六十五圓ニ滿タザルトキハ十分ノ十六ヲ超エザル範圍内ニ於テ六十五圓迄ヲ支給スルコトヲ得	

0511

「フオンターナ」法ニ代フルニ「アンチホルミン」ヲ利用セル極メテ簡單且確實ナル方法ヲ考案セリ
 抑右ハ從來ノ染色法ニ比較シ短時間ニシテ複雑ナル手技ヲ要セズ而モ試染資材ハ遙カニ少數ニテ足ル極メテ優秀ナル染色法ニシテ微毒ノ診斷治療ハ素ヨリ大戰役下蔓延ヲ來シ易キ性病豫防上ノ功績極メテ大ナルモノアリ又諸事諸般極度ノ節約ヲ強ヒラレ藥品資材亦拂底セル現時局下本染色法ノ考案ハ實ニ帝國海軍ノミナラズ廣ク國民保健衛生上ニモ貢獻スル所至大ナリト言フベシ
 惟フニ本人ハ平素謹嚴質直、忠君愛國ノ至情ニ燃エ確實ナル知識ニ加フルニ旺盛ナル研究心ト不屈ナル精神力トヲ以テ遂ニ克ク本染色法ヲ考案シタルモノニシテ平素ヨリ涵養セル軍人精神ノ發露ニ外ナラズ衆人ノ模範トスルニ足ル
 仍テ茲ニ其ノ善行ヲ表彰ス

昭和十九年十月一日

海軍練習聯合航空總隊司令官 松永貞市

○ 雜 談

○ 派遣先變更

當隊各飛行隊及審査部派遣先ノ中共ノ一部ヲ左ノ通變更ス
 霞ヶ浦派遣隊ハ左ノ基地ニ分散ニ付削除ス
 藤枝派遣隊 靜岡縣志太郡靜濱村 藤枝航空基地
 陸攻、銀河隊ノ大部 審査部ノ一部

大井派遣隊 靜岡縣榛原郡勝間田村 大井海軍航空隊

陸上機(除陸攻、銀河隊) 審査部ノ一部

(十一月二十四日秘海軍公報參照)

(横須賀海軍航空隊)

0512



海軍公報

第四八八七號

昭和十九年十二月二十三日(土)
海軍大臣官房

命令 達

官房潛機密第五號

左ノ各號ニ依リ七キロワット電氣飯炊器二型使用法及潜水艦糧食調理法講習ヲ施行ス。

吳鎮守府司令長官ハ吳海軍工廠長及吳潜水艦基地隊司令ヲシテ本講習ニ關シ講習指導官ニ協力セシムベシ。

昭和十九年十二月十八日

海軍大臣

一 講習目的

潜水艦用七キロワット電氣飯炊器二型(復水式)ノ使用法ヲ習得セシメ併セテ潜水艦糧食調理技術ノ向上ヲ圖ルニ在リ

二 講習科目、講習期日、講習場所、講習指導官(輔佐官)及講習員

講習科目	講習期日	講習場所	講習指導官(輔佐官)	講習員
一 七キロワット電氣飯炊器二型使用法 二 潜水艦糧食調理法	十二月二十五日	吳海軍工廠	指導官 吳在泊潜水艦、吳潜水艦基地隊及海軍經理學校長 輔佐官 海軍經理學校、吳海軍工廠及吳潜水艦基地隊ノ職員	適宜

三 實施要領

吳海軍工廠ノ七キロワット電氣飯炊器二型ヲ使用シ海軍經理學校、吳海軍工廠及吳潜水艦基地隊協力シテ實施スルモノトシ之方細目ハ講習指導官ノ定ムル所ニ依ル

四 經費

所要旅費ハ請求ヲ俟ツテ別途配付ス

官房入機密第二〇四七號

特設海軍飛行隊ノ定員中特務士官以下ハ其ノ所管ニ拘ラス左ノ區分ニ依リ之ヲ補充スベシ

昭和十九年十二月二十二日

海軍大臣

隊名	補充領守府	隊名	補充領守府
戰團第一乃至第四〇〇飛行隊	吳鎮守府	攻撃第六〇〇飛行隊	橫須賀領守府
戰團第八〇〇飛行隊	橫須賀領守府	偵察第一〇〇飛行隊	舞鶴領守府
戰團第八〇〇飛行隊	佐世保領守府	偵察第二〇〇飛行隊	橫須賀領守府
攻撃第一乃至第二〇〇飛行隊	橫須賀領守府	偵察第三〇〇飛行隊	吳鎮守府
攻撃第二〇〇飛行隊	佐世保領守府	偵察第六〇〇飛行隊	佐世保領守府
攻撃第四〇〇飛行隊	佐世保領守府	偵察第九〇〇飛行隊	佐世保領守府
攻撃第六〇〇飛行隊	佐世保領守府	偵察第一〇〇飛行隊	舞鶴領守府

秘海軍公報 第四八八七號

昭和十九年十二月二十三日

一六五三

0513

官房教機密第五六九號
本年官房教機密第四一二號中左ノ通改正ス

昭和十九年十二月二十二日

海軍大臣

第四號ニ左ノ如ク加フ

八 無章兵タル講習員中水兵科以外ノ者ハ本講習終了ノ際之ヲ現官職階ト同等ノ水兵科下士官又ハ兵ニ夫々任用又ハ轉科若ハ兵種ヲ變更スルモノトス

○通牒

兵備二機密第二三三三號

昭和十九年十二月十六日

海軍省兵備局長
海軍省經理局長

關係各廳長殿、

標準型自動車部分品納入要領變更ノ件照會

首題物品ハ兵備二機密第六五二號標準型自動車同車臺並ニ同部分品需給要領(昭和十九年四月六日海軍公報部内限参照)ニ拘ラズ昭和十九年十二月一日以降當分ノ間第二航空廠池子補給工場(七割)及施設本部芝浦補給部豊洲倉庫(三割)へ納入セシメ各自動車綜合修理工場ニ配付スルコトトシ要スレバ大口需要ノ部隊各廳各部ニ再配付致スコトト相成候條可然取計相成度

○雜款

○移轉

馬來海軍航空隊ハ十月二十日彼南航空基地ニ移轉セリ

○事務開始

事務所名	設置場所	事務開始月日	電話	記事
吳鎮守府交通保護部高知出張所	高知市棧橋通五丁目土佐汽船株式會社内	三月五日	高知一六二九	
海防艦男鹿艦裝具事務所	五野市三井造船株式會社内	三月七日		
波瀲第九潜水艇隊裝具事務所	兵舎内			
追濱海軍航空隊	三麥重工業株式會社神戶造船所内	三月二日		
殘務整理班	横須賀市浦須賀(舊追濱海軍航空隊)内	三月五日	横領交換一四五	

○轉勤者赴任先變更

自今當隊へノ轉勤者ハ左ニ依リ赴任セシメラレ度

第七六二海軍航空隊 千葉縣香取航空基地
偵察第五〇一飛行隊
偵察第十一飛行隊
攻撃第二六二飛行隊 愛知縣豊橋航空基地
(第七六二海軍航空隊)

秘

海軍公報

第四八八號

昭和十九年十二月二十六日(火)
海軍大臣官房

○令 達

内令第一三五九號

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

伊號第二百四潜水艦

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

伊號第十三潜水艦

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

海防艦。稻 木

吳鎮守府在籍

海防艦。稻 木

右警備海防艦ト定メラル

昭和十九年十二月十六日

海軍大臣

内令第一三六〇號

右本籍ヲ鎮海警備府ト定ム

第二百四十二號驅潛特務艇

昭和十九年十二月十九日

海軍大臣

内令第一三六一號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス
昭和十九年十二月十九日

海軍大臣

鎮海防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百三十號(鎮)」ノ次ニ
「第二百四十二號(鎮)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)

内令第一三六二號

昭和十五年内令第六四六號特設海軍工作部等ノ所掌區分等ヲ定
ムルノ件申左ノ通改正ス

昭和十九年十二月二十日

海軍大臣

表中第百三海軍軍需部セブ支部ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

第百三海軍軍需部
クラークフイール
ド支部

クラークフイール
ド

所在地方面各部ニ要
スル軍需品(航空兵
器ヲ除ク)ノ保管及
供給ニ關スル事項

(内令提要卷一、三八ノ五四頁参照)

秘海軍公報 第四八八號 昭和十九年十二月二十六日

一六五五

0515

<p>内令第一三六三號 特務艦類別等級別表中左ノ通改正ス 昭和十九年十二月二十日 海軍大臣 運送艦、隠戸型ノ項中「隠戸、」ヲ削ル (内令提要卷三、四二頁参照)</p>	<p>内令第一三六四號 特務艇類別等級別表中左ノ通改正ス 昭和十九年十二月二十日 海軍大臣 特務艇、驅潛特務艇第一號型ノ項中「第九十四號」ヲ削ル (内令提要卷三、四三頁参照)</p>	<p>内令第一三六五號 特設艦船部隊令中左ノ通改正セラル 昭和十九年十二月二十日 海軍大臣 第四十九條ノ十第二項中「海上護衛司令長官」ヲ「所屬長官」ニ改ム 第四十九條ノ十三中「海上護衛總司令部」ヲ「所屬長官ノ司令</p>
<p>部」ニ改ム (内令提要卷一、五六頁参照) 内令第一三六六號 海軍航空隊ノ所管、名稱及所在地又ハ原駐基地ノ件中左ノ通改正セラル 昭和十九年十二月二十日 海軍大臣 横須賀鎮守府ノ部中追濱海軍航空隊ノ項ヲ削ル (内令提要卷一、三〇ノ三九頁参照)</p>	<p>内令第一三六七號 海軍練習航空隊ニ指定ノ件中左ノ通改正セラル 昭和十九年十二月二十日 海軍大臣 「追濱海軍航空隊」ヲ削ル (内令提要卷一、三〇ノ四二ノ一頁参照)</p>	<p>内令第一三六八號 昭和十八年内令第二〇五五號海軍練習航空隊ノ所管事項ノ件中左ノ通改正ス 昭和十九年十二月二十日 海軍大臣</p>

追濱海軍航空隊ノ部ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ四三頁参照)

内令第一三六九號(軍極秘海軍公報第五三號(甲配付)ニ掲載)

内令第一三七〇號(軍極秘海軍公報第五四號(乙配付)ニ掲載)

官房人機密第二〇五二號

海軍武官任用令第十八條ノ四第二項並昭和十九年勅令第二百七十八號ノ規定ニ依リ十二月二十日附海軍特務士官及海軍豫備士官ヨリ海軍士官ニ任用セラレタル者ノ海軍ノ席次ヲ左ノ通定ス

昭和十九年十二月二十日

海軍大臣

記

海軍大尉芦田安太郎「三四一九」ノ次へ

海軍大尉 齋藤 禮雄(三四九)ノ三

同 田村 周夫(三四九)ノ三

海軍大尉奥田一男「三八四四」ノ次へ

海軍大尉 小山 博夫(三八四)ノ三

同 菊池 中(三八四)ノ三

海軍大尉田中幹男「四〇七七」ノ次へ

海軍大尉 奥野 長(四〇七)ノ三

同 櫻井 素明(四〇七)ノ三

同 石原 保(四〇七)ノ三

同 光安 守(四〇七)ノ三

海軍大尉戸澤 力「四三七三」ノ次へ

海軍大尉 山本 太郎(四三七)ノ三

同 米丸七郎治(四三七)ノ三

同 大久保貫之(四三七)ノ三

同 村尾 朗(四三七)ノ三

同 鈴木 勇(四三七)ノ三

同 森田直三郎(四三七)ノ三

同 石井 經世(四三七)ノ三

同 藤岡 良介(四三七)ノ三

同 中村 正明(四三七)ノ三

海軍大尉井上義臣「四七九〇」ノ次へ

同 鍛田 元夫(四七九)ノ三

同 宮崎 將(四七九)ノ三

同 中井 茂喜(四七九)ノ三

同 橋本 正潤(四七九)ノ三

同 伊藤 實(四七九)ノ三

同 村上 行賢(四七九)ノ三

同 池谷 豊(四七九)ノ三

同 今坂 國富(四七九)ノ三

同 川橋 省三(四七九)ノ三

同 佐々木隆治(四七九)ノ三

同 花田鐵次郎(四七九)ノ三

0517

海軍大尉	松井 武義 四七九ノ三	同	陶山 京一 五〇八ノ五
同	鈴木 友一 四七九ノ三	同	松浦 光利 五〇八ノ六
同	松岡 秀次 四七九ノ四	同	尾崎 顯三 五〇八ノ七
同	北村 幸一 四七九ノ五	同	吉野 信幸 五〇八ノ八
同	長田清一郎 四七九ノ六	同	許斐 權 五〇八ノ九
同	勝呂 堅吾 四七九ノ七	同	角野 久夫 五〇八ノ一〇
同	高井 正哲 四七九ノ八	同	山本 正早 五〇八ノ一一
同	行木 速雄 四七九ノ九	同	奥 重徳 五〇八ノ一二
同	富士川賢次 四七九ノ一〇	同	小池 利一 五〇八ノ一三
同	松丸 三郎 四七九ノ一一	同	岸良 壽巳 五〇八ノ一四
同	遠藤陸比古 四七九ノ一二	同	菊本日出夫 五〇八ノ一五
同	小林 省三 四七九ノ一三	同	野口 克巳 五〇八ノ一六
同	丹羽 嘉郎 四七九ノ一四	同	安部安次郎 五〇八ノ一七
同	銀山 忠兼 四七九ノ一五	同	水倉喜代四 五〇八ノ一八
同	今野 正巳 四七九ノ一六	海軍大尉	倉富伊南男 五〇九ノ三
同	松崎 森義 四七九ノ一七	同	太田原尙清 五〇九ノ四
同	眞鍋 義雅 四七九ノ一八	同	大沼 満 五〇九ノ五
同	今田 勝巳 四七九ノ一九	同	井手 伊武 五〇九ノ六
同	豊田 正明 四七九ノ二〇	同	大野 隆正 五〇九ノ七
海軍大尉	勳「五四八八」ノ次へ	同	安藤 敏包 五〇九ノ八
海軍大尉	一村 静男 五〇九ノ三	同	松下 辰夫 五〇九ノ九
同	西 基 五〇九ノ三	同	間 信 五〇九ノ九
同	渡邊豊太郎 五〇九ノ四		

0518

同	小坂美智雄(五九〇ノ二〇)	海軍中尉	中島 晋(五三〇ノ三)	海軍少尉	神田富士夫(七三〇ノ三)
同	高田 亮(五九〇ノ二)	同	櫻井 五郎(五三〇ノ三)	同	藤木 清(七三〇ノ三)
同	田淵 勝(五九〇ノ三)	同	田中 義一(五三〇ノ四)	同	向原 誠也(七三〇ノ四)
同	栗原 靜雄(五九〇ノ三)	同	小久保俊雄(五三〇ノ三)	同	加藤 武男(七三〇ノ三)
同	砂田 欣也(五九〇ノ四)	同	佐藤 充邦(五三〇ノ三)	同	岩垂 賢郎(七三〇ノ三)
同	西村 榮一(五九〇ノ二)	同	諸橋 清隆(五三〇ノ七)	同	高城榮一郎(七三〇ノ七)
同		同	大友 郁美(五三〇ノ八)	同	竹政 信明(七三〇ノ八)
同		同	橋本 嚴(五三〇ノ九)	同	
同		同	曾根 修(五三〇ノ一〇)	同	
同		同	木下 一(五三〇ノ一一)	同	
同		同	小山 健一(五三〇ノ一二)	同	
同		同	川島利兵衛(五三〇ノ一三)	同	
同		同	村上 哲夫(五三〇ノ一四)	同	
同		同	小倉 賢一(五三〇ノ一五)	同	
同		同	鈴木 靜男(五三〇ノ一六)	同	
同		同	渡邊 幸男(五三〇ノ一七)	同	

海軍中尉藤藤金吾「五五〇三」ノ次へ

海軍少尉浦田良三「七三一〇」ノ次へ

海軍少尉 高濱 司(六三〇ノ三)

0519

○ 通 牒

軍務一機密第一一九三號

昭和十九年十二月二十五日

海軍省軍務局長

關係各廳長殿

電波高度計ノ整備取扱擔當區分ニ關スル件通知

首題ノ件艦船部隊ニ於テハ掌航空兵器兵(電波)主トシテ擔任シ掌整備兵之ニ協力スル義ト了知相成度

經給機密第一九四號

昭和十九年十二月二十三日

海軍省 經理局

關係各廳御中

戰地外ニ於テ入院又ハ療養中ノ戰時増修ニ關スル件通牒

海軍戰時特例給與規則第二條ノ八又ハ昭和十六年官房機密第一二六三九號第三項ノ規定ニ該當スル者戰地外ニ於テ入院又ハ療養中出仕、鎮守府附若ハ警備府附ト爲リ又ハ海兵團ニ送籍セラレタルトキハ退院又ハ療養地出發ノ日ノ前日迄引續キ所定ノ戰時増修ヲ支給シ得ルコトニ取扱フ一定致候

○表彰

合同海軍葬儀執行

期日及時刻	大東亞戰爭戰歿者	喪葬管理者	場	所	記事
一月十三日 〇一〇〇	故海軍中佐中田市太郎外諸勇士	舞鶴海軍人事部長	金澤東本願寺別院	佛式	
一月十五日 〇一〇〇	故海軍大尉岡崎喜八郎外諸勇士	舞鶴海軍人事部長	新潟市公會堂	同	

○本日軍極秘海軍公報第五三號(甲配付)及同第五四號(乙配付)發行セリ

第五四號配付先

各司司令部、各航空隊、各航空廠、同支廠、航空技術廠、同

賞狀

可總周波増幅機ヲ考案完成シ帝國海軍ニ貢獻スル所洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ木村一組並ニ金參百圓ヲ授與ス(昭和十九年十一月三十日海軍大臣)

○難款

○事務所撤去

事務所名	撤去月日	記事
第八十一號海防艦艇裝具事務所	二月一四日	
海防艦四阪艦艇裝具事務所	二月一五日	
伊號第十三潜水艦艇裝具事務所	二月一六日	

支廠

○本日海軍公報發行セズ

0520

秘

0521

海軍公報

第四八八九號

海軍大臣官房

昭和十九年十二月二十七日(水)

○令 達

内令第一三七二號

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

第五十五號海防艦

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メラル

第六十九號海防艦

吳鎮守府在籍

第五十五號海防艦

舞鶴鎮守府在籍

第六十九號海防艦

右警備海防艦ト定メラル

昭和十九年十二月二十日

海軍大臣 臣

内令第一三七二號

吳鎮守府在籍

特務艦 隱 戸

右帝國特務艦籍ヨリ除カル

昭和十九年十二月二十日

海軍大臣 臣

内令第一三七三號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年十二月二十日

海軍大臣 臣

馬公方面特別根據地隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第九十四號(高)」ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)

内令第一三七四號

右本籍ヲ高雄警備府ト定メタル處之ヲ解ク

昭和十九年十二月二十日

海軍大臣 臣

内令第一三七五號

漁船 第一開運丸

同 第一平運丸

同 第八恵比壽丸

同 第三金毘羅丸

同 秀福丸

同 第三日康丸

秘海軍公報 第四八八九號 昭和十九年十二月二十七日

一六六一

漁船 第二吉長丸
同 第八大雷丸
右特設監視艇トシ横須賀鎮守府所管ト定ム
昭和十九年十二月二十日
海軍大臣

内令第一三七六號
昭和十八年内令第二五六六號別表中左ノ通改正ス
昭和十九年十二月二十日

海軍大臣

横須賀防備隊ノ項特設監視艇ノ欄「宮城丸(横)」ノ次ニ「第二海運丸(横)、第三魁丸(横)、萬壽丸(横)、安波丸(横)、第十一五十鈴丸(横)、長功丸(横)、第七琴平丸(横)、辨天丸(横)、第二天幸丸(横)、第二天幸丸(横)、第一長周丸(横)、第二長周丸(横)、第二福軍丸(横)、第五盛秋丸(横)」ヲ加フ
女川防備隊ノ項特設監視艇ノ欄「第二海運丸(横)、第三魁丸(横)、萬壽丸(横)、安波丸(横)、第十一五十鈴丸(横)、長功丸(横)」、
「第七琴平丸(横)、辨天丸(横)」、
「第二天幸丸(横)、第二天幸丸(横)、第一長周丸(横)、第二長周丸(横)」、
「第二福軍丸(横)」、
及「第五盛秋丸(横)」ヲ開リ「第二漁勝丸(横)」ノ次ニ「第一開運丸(横)、第一平運丸(横)、第八恵比壽丸(横)、第三金毘羅丸(横)、秀福丸(横)、第三日康丸(横)、第二吉長丸(横)、第八大雷丸(横)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ二九頁参照)

内令兵第九五號
兵器造修規則中左ノ通改正ス
昭和十九年十二月二十六日
海軍大臣
第一百九條第三號(イ)ノ(二)中「四時間放電率」ヲ「二時間放電率」ニ改ム

官房艦機密第七七六四號
昭和十八年官房艦機密第一五九三號別冊海軍機密書類貸與工場名簿中左ノ通改正ス
昭和十九年十二月十八日
海軍大臣

索引ト之部末尾ニ「株式會社戸上電機製作所」一七二ノ二」ヲ加フ
同タ之部末尾ニ「臺灣船渠株式會社」一七八ノ五」及「株式會社臺灣鐵工所」一七八ノ六」ヲ加フ
同ノ之部末尾ニ「中島飛行機株式會社半田製作所」一〇四」ヲ加フ
同マ之部中「松下無線株式會社」ヲ「松下電器産業株式會社無線製造所」ニ、「松下電氣工業株式會社」ヲ「松下電器産業株式會社電機製造所」ニ改メ末尾ニ「松屋精鍛株式會社」一七二ノ二」ヲ加フ
同ア之部末尾ニ「愛知航空機株式會社」一〇四」ヲ加フ

同ミ之部中「彦島造船所」ヲ「下關造船所」ニ改ム
 同モ之部ニ「森田卿筒工業株式會社」一「二九」ヲ加フ
 室蘭監督官監督區域ノ部株式會社日本製鋼所室蘭製作所ノ項中
 取扱主任ヲ「宮本一郎」ニ改ム
 東京監督官監督區域ノ部株式會社日本製鋼所ノ項中取扱主任ヲ
 「久井小市」ニ、株式會社日本製鋼所橫濱製作所ノ項中取扱主任
 ヲ「島尾又治郎」ニ、日本電波機械株式會社ノ項中取扱主任
 「電氣工場」白倉政太郎ヲ「電氣工場」小田島藤藏ニ、東
 洋通信機株式會社ノ項中取扱主任ヲ「淡近赳夫」ニ、沖電氣株

式會社ノ項中取扱主任ヲ「飯島福次郎」ニ、蒲田工業株式會社
 ノ項中工場主ヲ「町田哲二郎」ニ、取扱主任ヲ「細川 清」
 ニ、山中電機株式會社ノ項中取扱主任ヲ「加賀左金吾」ニ、株
 式會社日立製作所多賀工場ノ項中取扱主任ヲ「西川成三」ニ、
 日本火工株式會社ノ項中取扱主任ヲ「南里昌治」ニ改ム
 富山監督官監督區域ノ部株式會社石川製作所ノ項中取扱主任ヲ
 「高橋金一」ニ改ム
 名古屋監督官監督區域ノ部興亞精工株式會社ノ項中取扱主任ヲ
 「堀田正夫」ニ、關東電氣興業株式會社西尾工場ノ項中取扱主任
 ヲ「宮地貞澄」ニ改メ同部末尾ニ左ノ二項ヲ加フ

中島飛行機株式會社半田製作所 (愛知縣半田市大字乙川字五丁濱)	三	竹	忍	橋	木	公	平
愛知航空機株式會社 (名古屋港區稻永新田字四八)	青	木	錄	太	郎		
				(總務部)	與	村	國
				(技術部)	五	明	得
				(製作部)	米	澤	宏
				(飛行部)	松	尾	喜
				(檢査部)	西	澤	俊
				(發動機)	原	重	政
				(製作所)	高	井	隆

大阪監督官監督區域ノ部松下無線株式會社ノ項中工場名ヲ「松
 下電器産業株式會社無線製造所」ニ、湯淺蓄電池製造株式會社
 ノ項中取扱主任ヲ「小林謙三」ニ、早川電機工業株式會社ノ項
 中取扱主任ヲ「大橋 勇」ニ、松下電氣工業株式會社ノ項中工

場名ヲ「松下電器産業株式會社電機製造所」ニ、協和造船株式
 會社ノ項中工場主ヲ「中山 半」ニ、取扱主任「福田計雄」ヲ
 「村井藏吉」ニ改メ同部末尾ニ左ノ一項ヲ加フ

秘海軍公報 第四八八九號 昭和十九年十二月二十七日

一六六三

<p>森 田 柳 筒 工 業 株 式 會 社 (大阪市港區八雲町五ノ一七)</p>	<p>西 尾 種 熊 阿 部 正</p>	<p>神戸監督官監督區域ノ部山岡内燃機株式會社ノ項中工場名ヲ「山岡内燃機株式會社」ニ、取扱主任ヲ「金子健造」ニ、株式會社神戸製鋼所ノ項中取扱主任「設計」熊本一策ヲ「設計」野崎龍三ニ、「庶務」小栗 正ヲ「庶務」名倉周雄ニ、「三菱重工業株式會社」神戸造船所ノ項中取扱主任「造機工作」藤津冬彰ヲ「造機工作」小塚於菟丸ニ、「造機工作」神山重雄ヲ「造機工作」佐野次夫ニ、「潜水艦部」川村信次ヲ「潜水艦部」重滿通彌ニ、「修繕部」生方良夫ヲ「修繕部」足立敏雄ニ改メ同項取扱主任ノ欄ニ「潜水艦部」中西孝七ヲ</p>	<p>加フ 岡山監督官監督區域ノ部三井造船株式會社玉野造船所ノ項中取扱主任ノ欄ニ「生産計畫」牧野鐘二、「(資材)」中島隆秀及「修繕艙裝」持節俊雄ヲ加フ 八幡監督官監督區域ノ部三菱重工業株式會社彦島造船所ノ項中工場名ヲ「三菱重工業株式會社」下關造船所ニ、取扱主任「(工務部)」村上 榮ヲ「(工務部)」林 英三ニ改ム 福岡監督官監督區域ノ部三井化學工業株式會社ノ項中取扱主任ヲ「吉田爲次」ニ改メ同部末尾ニ左ノ二項ヲ加フ</p>
<p>松 屋 精 鍛 株 式 會 社 (福岡縣筑紫郡那珂町大字東光寺五九ノ一)</p>	<p>宮 村 堅 一 松 田 大 助 谷 次 喜 與</p>	<p>長崎監督官監督區域ノ部三菱重工業株式會社長崎造船所ノ項中取扱主任ノ欄ニ「(材料)」平瀬輝夫ヲ加ヘ三菱製鋼株式會社社長崎製鋼所ノ項中取扱主任「(製鋼)」久保田豊ヲ「(製鋼)」石川</p>	<p>頼三ニ、「(検査)」安中昌吉ヲ「(検査)」曾木武光ニ改メ同項取扱主任ノ欄ニ「(工務)」安中昌吉ヲ加フ 臺北監督官監督區域ノ部末尾ニ左ノ二項ヲ加フ</p>
<p>臺灣 船 渠 株 式 會 社 (臺灣臺北基隆市社寮町二四三)</p>	<p>山 村 初 久 浦 祐 吉</p>	<p>株 式 會 社 戸 上 電 機 製 作 所 (佐賀市大財町三八五)</p>	<p>戶 上 信 文 松 村 傳 三</p>

株式會社
東本工場
東本工場
（高橋市入船町五ノ一四）
（高橋市戲獅甲四三三ノ二七）

泉

量一

針石倉七
令非直城

官房人機密第二〇五八號

海軍武官任用令第十八條ノ四第二項ニ依リ十二月二十三日附海軍特務士官ヨリ海軍士官ニ任用セラレタル者ノ海軍ノ席次ヲ左ノ通定ム

昭和十九年十二月二十三日

海軍大臣

記

海軍大尉水倉喜代四「漢六」ノ次ハ

海軍大尉 金田 敷正(漢六)五
同 遠藤 幸男(漢六)三

官房教機密第五七三號

左ノ各號ニ依リ臨時電測術講習ヲ施行ス

昭和十九年十二月二十六日

海軍大臣

一 講習目的

普通科電測術練習生教程卒業直後ノ電測兵ニ對シ中堅電測員トシテ概テ任務遂行ニ支障ナキ兵器整備ニ關スル識能ヲ習得セシムルニ在リ

二 講習科目、講習期間、講習指導官及實施細目

講習科目	講習場所	講習期間	實施細目
一 兵器ノ調整備法 二 兵器ノ整備及修補法 ノ初歩 三 電源ノ取扱調整法	海軍電測學校 海軍電測學校長	約三、五月	左ノ外指導官所定 一 概テ高等科電測術練習生ニ準ズル兵器教育ヲ施スモノトス 二 指導官ハ概テ須賀鎮守府司令長官ノ認可ヲ受ケ講習員ヲ適宜部内各部及部外工場等ニ派遣實習セシムルコトヲ得

三 講習回次、講習開始時機及講習員

講習回次	講習開始時機	講習員選抜範圍	領守府別員數標準	別專修	橫吳佐	雜	記	事
第一	昭和二十年一月四日	第七期、第八期普通科電測術練習生	對空哨 三五 對水上 二五 對空哨 三五 對水上 二五	對空哨 三五 對水上 二五	對空哨 三五 對水上 二五	對空哨 三五 對水上 二五	一 講習員ハ上記選抜範圍内ヨリ適格者ヲ選抜スルモノトス 二 講習員ノ人事取扱ハ練習生ニ準ズ	
第二	以降ハ追テ定ム							

四 經費

所要經費ハ請求ヲ俟テ別途配付ス

○ 通 牒

秘海軍公報 第四八八九號 昭和十九年十二月二十七日

一六六五

0525

軍需機密需第七一二號

昭和十九年十二月二十三日

海軍省軍需局長

各海軍軍需部長
各特設海軍軍需部長 殿

艦營需品供給停止、供給制限、代用品利用及規格低下ニ關スル件申進

昭和十八年軍需機密需第五七七號申進首題ノ件中左記ノ通改正セラレ候

記

供給停止品

區分	主 管 別	區 別	品 名	記 事
追加	内務長主管運用之部	消耗品	リノリウムパテ	在庫限供給

代用品使用又ハ規格低下

區分	主 管 別	區 別	品 名	記 事
追加	内務長主管運用之部	備品	爪 竿 丁	柄ハ竹製トスル コトヲ得
同	同	消耗品	爪 竿 柄 丁	竹製トスルコト ヲ得
削除	同	同	リノリウムパテ	

艦本第三號ノ三七三八

昭和十九年十二月二十六日

海軍艦政本部總務部長

各海軍工廠長
各海軍工作部長
各海軍監督部長 殿

隔壁用電氣計器竝ニ同附屬品水防箱、水防栓及電線接續端子ニ關スル件照會

首題計器竝ニ附屬品ノ製造促進ノ爲自今同用水防栓及電線接續端子ハ艦船用電氣計器規格第八章竝ニ第九章ニ規定ノモノニ統一製造ノ事トシ異型ノモノヲ必要トスル場合ハ需要者ニ於テ適宜手直シノ上使用ノ事ニ取計ヲ得度

○雜 款

○移轉

十二月十六日當部廳舎ヲ横須賀市港町(海仁會港町配給所隣)ニ移轉セリ

(横須賀海軍運輸部)

○電話増設

當部ニ左ノ通電話ヲ増設セリ
札幌 六四一六番

(札幌地方海軍人事部)

0526

秘

海軍公報

第四八九〇號

昭和十九年十二月二十八日(木)
海軍大臣官房

○告示

海軍省告示第一號ノ一三

第一海上護衛艦隊ニ艦隊軍法會議ヲ置ク

昭和十九年十二月二十五日

海軍大臣

○令達

内令第一三三七號

右本籍ヲ吳鎮守府卜定メラル
第四十號海防艦

吳鎮守府在籍

右警備海防艦卜定メラル
第四十號海防艦

昭和十九年十二月二十二日

海軍大臣

内令第一三七八號
第四十五號海防艦
第七十六號海防艦

右本籍ヲ横須賀鎮守府卜定メラル

右警備海防艦卜定メラル

昭和十九年十二月二十五日

海軍大臣

横須賀鎮守府在籍

第四十五號海防艦

第七十六號海防艦

右警備海防艦卜定メラル

昭和十九年十二月二十三日

海軍大臣

内令第一三三九號

右本籍ヲ吳鎮守府卜定メラル
第一百五十號海防艦

吳鎮守府在籍

右警備海防艦卜定メラル
第一百五十號海防艦

昭和十九年十二月二十四日

海軍大臣

内令第一三八〇號(軍極秘海軍公報第五五號(乙配付)ニ掲載)

内令第一三八一號

海防隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十九年十二月二十五日

海軍大臣

秘海軍公報 第四八九〇號 昭和十九年十二月二十八日

一六六七

0527

第二十一海防隊ノ項中「笠戸、生名、屋久、干珠、滿珠、三宅」ヲ「生名、新南、干珠、滿珠」ニ改ム
第三十一海防隊ノ項中「朝顔、」ヲ「沖繩、」ニ改ム

(内令提要卷一、七三頁参照)

内令第一三八二號

特設船舶警戒部處務規程中左ノ通改正ス

昭和十九年十二月二十五日

海軍大臣

第六條表中

三	池	船舶警戒部三池支部	ヲ
三	池	船舶警戒部三池支部	ニ改ム
長	時	船舶警戒部長時支部	ニ改ム

(内令提要卷一、三八ノ七二ノ四頁参照)

官房經機密第一八七六號

化學兵器手當支給規則外一件中左ノ通改正ス

昭和十九年十二月二十七日

海軍大臣

- 一 化學兵器手當支給規則中左ノ通改正ス
- 第一條中第五號ヲ第六號トシ第四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ
- 五 海軍療品廠
- 二 昭和十九年官房經機密第一三〇八號中左ノ通改正ス

第一號中(ホ)トシ(ニ)ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ
(ホ) 海軍療品廠

附則

本令ハ昭和二十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

(参照) 化學兵器手當支給規則 海軍機密會計法規類集 一八三頁
昭和十九年官房經機密第一三〇八號 同 一八五頁

○ 通 牒

軍需二第一四四號

昭和十九年十二月二十六日

海軍省軍需局長

海軍航空本部長

關係各廳長殿

エーテル取扱ニ關スル件通牒

寒冷時航空燃料用アルコイルニハエーテルヲ添加使用セシメラ
ルル豫定ノ處之方規格及取扱法等ニ關シテハ追テ定メラルベキ
モ差當リ取扱上ノ注意事項左記ノ通ニ付可然取計相成度

記

- 一 エーテルノ揮發性、引火性ハ航空揮發油ニ比シ遙ニ大ナル
ヲ以テ漏洩防止竝ニ火氣、電氣火花等ノ隔絶ヲ圖リ特ニ左ノ
各項ニ留意スルヲ要ス
- (イ) 容器(ドラム罐)ハ特ニ完全ナルモノヲ使用シ口金、パツ



海軍公報 第四八九一號

昭和十九年十二月二十九日(金)
海軍大臣官房

○通 牒

軍需機密第七一四號

昭和十九年十二月二十七日

海軍省軍需局長

各海軍軍需部長
各特設海軍軍需部長 殿

經營需品供給停止、供給制限、代用品利用及
規格低下ニ關スル件申進

昭和十八年軍需機密第五七七號申進首題ノ件中左記ノ通改正
セラレ候

記

供給停止品

區分	主管別	區別	品名	記	事
追加	機關長	備品	硝子管切	本品ハ成ルベク速ニ最密軍需部 ニ還納セシムルコトトシ各船ハ 之ヲ促進ノ上其ノ數額ヲ軍需局 ニ通報ノコト	事
	備品	硝子管切			

供給制限品

區分	主管別	區別	品名	記	事

改正	主計長	備品	ナイフ大
同	同	同	フ、オーク大
同	同	同	砂糖壺

將官室用ノミトシ其ノ他ハ供
給セズ

代用品利用又ハ規格低下

區分	主管別	區別	品名	記	事
削除	機關長	備品	硝子管切		

航本機密第一五七四八號

昭和十九年十二月二十八日

海軍航空本部總務部長

關係各廳長 殿

航空兵器經理規程改正實施ニ關スル件照會

今般達第三六九號改正首題ノ件ハ航空兵器ノ補給事務ノ簡捷ヲ
計リ以テ決戰ニ即應セシメントスル趣旨ニ依リ改正セラレタル
モノナルニ付右實施ニ關シテハ左記參照ノ上之方處理ニ關シ萬
遺憾ナキ様可然取計相成度

記

一 主ナル改正要旨

秘海軍公報 第四八九一號 昭和十九年十二月二十九日

一六七

0529

- 二 實施概要
- (イ) 航空兵器定數表ハ第二海軍航空廠ニ照會シ送付ヲ受クルモノトス
 - (ロ) 既設置施部隊ニ對シテハ準備擔任海軍航空廠ヨリ送付シ實施部隊ニ於テ所事項ヲ記入シ之ヲ準備擔任海軍航空廠ニ於テ調査捺印ヲ受ク但シ外戰部隊ニ對シテハ時機ヲ得次第逐次移行スルモノトス
 - (ハ) 新設ノ艦船部隊ニ對シテハ昭和十九年官房空機密第一九二五號通知第三號飛行長主管第一類航空兵器定數簿調製要領ニ準ジ處理ノコト
 - (ニ) 出納票用紙ハ各實施部隊又ハ海軍航空廠(補給擔任廳ヲ含ム)ニ於テ調製ノコト
 - (ホ) 航空兵器定數表用紙配付迄ハ現行ニテ實施シ用紙配付次第移行ノコトトス
- 三 其ノ他
- 第二海軍航空廠ハ可成速ニ航空兵器定數表用紙ヲ調製シ各海軍航空廠ニ送付ノコトニ取計相成度

○雜 談

○事務所移轉
佐世保海軍軍需部那覇支部ハ十二月一日ヨリ左記ニ移轉セリ
記
那覇市小祿村字安次嶺

○事務開始

事務隊名	設置場所	事務開始日	電話	記事
第三二特根レカスビ 派遣隊殘務整理班	第三十五營備隊内	二月三日		十一月二十 五日第一 五營備隊 ニ改編
第百二十四號海防艦 機裝員事務所	大阪府泉南郡多奈川町 川崎重工業泉州工場内	三月五日		
笠置機裝員事務所	長崎市飽ノ浦町長崎海 軍監督官事務所内	三月八日		
第三千十四設營隊	戸塚横濱教導設營隊内	三月五日		
第六五三海軍航空隊 殘務整理班	佐世保艦船部隊殘務整 理班内	三月五日		
第三百三十五設營隊	舞鶴市公文名舞鶴海軍 施設部第一設營隊内	三月六日		

○轉勤者赴任先

自今當隊宛轉勤者ハ左記ニ向ケ旅行センメラレ度
記
靜岡縣志太郡靜濱村藤枝航空基地
(戰團第九〇一飛行隊)

0530

秘

海軍公報

第四八九二號

昭和十九年十二月三十日(土)

海軍大臣官房

○令 達

官房人第二二八八號

昭和十七年官房第五七八八號中左ノ通改正ス

昭和十九年十二月二十八日

海軍大臣

「准士官及下士官」ノ下ニ「並ニ召集中ノ豫備准士官及豫備下士官」ヲ加フ

(諸例則卷一、八二六ノ一頁参照)

○通 牒

軍務一機密第一二〇四號

昭和十九年十二月二十九日

海軍省軍務局長

各鎮守府、各警備府、各艦隊參謀長、
海軍練習聯合航空總隊參謀長 殿

火災防止ニ關スル件申進

首題ノ件ニ關シテハ各部ニ於テ流分留意セラレツツアリト認ム
ルモ近來ノ事故ニモ鑑ミ且嚴冬季ヲ控ヘ左記ニ關シ特ニ取締勸
行方取計相成度

秘海軍公報 第四八九二號 昭和十九年十二月三十日

記

一 電熱器關係電路ノ整理

冬季電熱器使用ニ伴ヒ取扱整備ノ不良ニ依ル出火極メテ多シ
假設電路ハ之ヲ嚴禁セラレアリ

(イ) 電熱器ヲ過度ニ使用シ電氣的接觸部ニ火花ヲ生ジ火災ヲ
生ゼンモノアリ

(ロ) 假設ノ湯沸電熱器等ヲ裝備シ火災ヲ生ゼンモノアリ

二 揮發油ノ取締

揮發油使用取締不良ノ爲火災ヲ生ゼンモノ相當アリ

三 疎附解毀豫定建物内ノ火氣取締

最近疎附解毀豫定建物内ニテ出火セル例アリ人氣比較的尠キ
場所ノ監視ヲ充分ニ爲スコト

四 喫煙取締

(イ) 喫煙場所ヲ明示シ且吸殻ノ處理ヲ確實ナラシムルコト
(ロ) 未成年者ニシテ往々人目ナキ場所ニテ喫煙シ出火ノ因ヲ
爲セル例アリ

五 煖房ノ取締

過度ノ使用ヲ嚴重ニ取締リ使用後ノ火元點檢ヲ勵行スルコ
ト

0531

一六七三

海人三機密第一號ノ三〇六

昭和十九年十二月二十八日

海軍省人事局長
海軍省教育局長

各鎮守府、各艦隊、各警備、
海軍練習聯合航空總隊、參謀長、
關、海軍練習聯合航空總隊、
係、各所、各轄、各長、殿

昭和十八年六月一日以降充員召集ノ第一補充
兵、第二補充兵及第二國民兵ニ對スル人事取
扱ニ關スル件申改正ノ件申進

昭和十八年海人機密第一號ノ一九二申進首題ノ件中第三號乃至
第五號ヲ左記ノ通改正セラレ候

記

三 召集セル補充兵及國民兵ハ鎮守府司令長官ノ定ムル教育廳
ニ配員シ左ニ依リ基礎教育ヲ實施ス但シ別ニ定メタルモノハ
本號(ロ)項ニ依ル教育ヲ實施セザルコトヲ得

(イ) 海兵團參著後概ネ十日以内ニ教育廳ニ入應セシメ基礎教
育ヲ開始ス

鎮守府司令長官ハ出發迄ノ期間海軍一般常識及輸送中ノ心
得等必要ナル教育實施ノ爲部下職員ニ所要ノ指導官及同附
ヲ命ズ

(ロ) 基礎教育實施要領

班別 教育期間 教育廳 教育實施要領

備考	陸上班	約三月半	約三月半	海兵團又ハ海軍警備隊但シ海軍練習隊ニ在リ	新兵教育ニ準ズ
	陸上各部	約一月半	約二月	海兵團、海軍警備隊又ハ海軍練習隊ニ在リ	新兵教育ニ準ズ但シ教 程標準ハ別表ニ依ル
一 鎮守府司令長官ハ補充兵及國民兵ノ兵種決定ノ際其 ノ經歷及身體等ノ狀況ヲ考慮シ之ヲ艦隊及陸上艦隊ニ 分ツモノトシ其ノ比率ヲ概ネ艦隊二〇%、陸上艦隊 要員ヲ含マズ、陸上班九〇%トス但シ艦隊兵ハ艦隊 ニシテ難キ場合ニ在リテハ之ヲ所管陸上各部ニ配員シ シキ場合ニ在リテハ之ヲ所管陸上各部ニ配員シ陸上 班教育ニ準ジ基礎教育ヲ終了セシムルモノトス	陸上各部	約一月半	約二月	海兵團、海軍警備隊又ハ海軍練習隊ニ在リ	新兵教育ニ準ズ但シ教 程標準ハ別表ニ依ル

四 所轄長ハ基礎教育ヲ終了シタル時教育實施又ハ人事取扱ニ
關シ格別ノ所見(修業成績ノ添付ヲ要セズ)アル場合ニ限リ
所屬長官及本人在籍ノ鎮守府司令長官ニ之ヲ提出又ハ送付ス
ルモノトス

五 基礎教育實施中ノ者ハ特別ノ事由アル場合ノ外他ニ轉出セ
シメザルモノトス

附則

本令ハ昭和二十年一月一日ヨリ之ヲ適用ス

海人機密第一號ノ五二九
昭和十九年十二月二十八日

海軍省人事局長

0532

(海人三機密第一號ノ三〇六別表)

補充兵及國民兵(陸上班)基礎教育課程標準(二月)

(昭和十九年十二月三十日秘海軍公報)

教授時數合計	學										事					軍										育			訓		科目	
	雜科										衣經	看護	工務	機關	整備	砲術										銃劍術	體操	勤務	勸諭	修身		
	衛生	口達傳令法	手旗信號法	ノ勤務ニ必要ナル諸法規ノ概要	築城一般	艦船兵器ノ概要	航空機ノ概要	手先信號法	見張法	防毒訓練						梶漕法、櫓漕法	運川術大意	小銃射擊法	陸戰要務	練中隊教練	練小隊教練	銃分隊教練	執各個教練	徒手教練	手榴彈							高角砲
二二〇	四	四	六	一〇	一〇	一〇	六	適宜	一〇	五	二六						一五	一〇	二	三	六	一〇	六	四	五	一五	八	五	宜	一〇	一〇	水兵
二二〇	四	六	六	一六	一〇	一〇	六	適宜	一〇	五	適宜	一四					一五	二	一	二	四	八	六	二		一〇	五	八	宜	一〇	一〇	整備兵
二二〇	四	六	六	一六	一〇	一〇	六	適宜	一〇	五	一四	一四					一五	二	一	二	四	八	六	二		一〇	五	八	宜	一〇	一〇	機關兵
二二〇		四	六	一六	一〇	一〇	六	適宜	一〇	五	一四	一四					一五	二	一	二	四	八	六	二		一〇	五	八	宜	一〇	一〇	衛生兵
二二〇	四	四	六	一四	一〇	一〇	六	適宜	一〇	五	一四	一四					一五	二	一	二	四	八	六	二		一〇	五	八	宜	一〇	一〇	主計兵
二二〇																																

0533